

平成29年度 園の自己評価および学校関係者評価

ひしのみこども園では、教職員と保護者の皆さんに、「ひしのみこども園の教育と保育及び運営」について、アンケート調査を行い、それに基づいて、園の自己評価を行いました。また、自己評価の客観性を高めるために、学校関係者評価委員会を設け、部外者評価を実施しました。

この貴重な結果を大事にして、平成30年度に臨みたいと思います。

平成30年3月 ひしのみこども園 園長 千住由一朗

1. 園の保育と教育の目標

「主体的、創造的活動を促すとともに、集団生活をとおして、思いやりの心や社会性を身につけさせ、生きる力の基礎を培う」

2. 求める子どもの姿

優しく	賢く	逞しく
<ul style="list-style-type: none"> 感性豊かな子 あいさつのできる子 	<ul style="list-style-type: none"> 知的好奇心に富む子 自分で考え創造する子 	<ul style="list-style-type: none"> 進んで運動する子 健康や安全に気をつける子

3. 保育と教育の方針

- 子どもたちが園庭やホールで、進んで身体を動かし、のびのびと遊びを楽しむよう、環境構成を工夫する。
- 遊びの中で芽生える疑問や知的好奇心、文字や数量などに対する関心や活動意欲を大切に受けとめ、子どもの知的発達を促す場作りを工夫する。
- 保護者と連携し、日常生活における基本的な生活習慣が身につくよう努めるとともに、集団生活を通して、社会性や創造力、優しさ、たくましさなどを育てる。
- 園内外における自然体験や社会体験を通して、豊かな感性や表現力を育て、知的発達を促し、人間力の基盤を育てる。
- 野菜の栽培や生き物の飼育を通して、生命の神秘にふれさせ、また、自然の恵みに感謝する気持ちを持たせるとともに、給食との関連を図り、楽しさと同時に食事のマナーを身につけさせる。
- 園の内外における園児の安全と安心の確保のために細心の配慮を心がける。
- 節水、節電、ごみの減量など身近なエコ活動を通して、身の回りの自然や生活への関心を深める。また、家庭との連携により具体性を高くする。

4. 評価

自己評価の基準		関係者評価の基準	
A	職員評価の平均値と保護者評価の平均値を平均し、その値が90以上	A	園の自己評価を納得できる
B	職員評価の平均値と保護者評価の平均値を平均し、その値が、70以上	B	園の自己評価を大体納得できる
C	職員評価の平均値と保護者評価の平均値を平均し、その値が、70未満	C	園の自己評価をあまり納得できない
		D	園の自己評価を納得できない

領域	評価の観点	自己評価		関係者評価	
運営の体制	1. 教育・保育への意欲	A	行事を重ねるにつれて、子どもの成長を感じることができた。	A	園の評価に納得できます。
	2. 施設・設備の安全管理と有効活用	A	毎月の安全点検で、安全を確かめ、修理などを通して、安全・有効活用に達している。	A	園の評価に納得できます。
	3. 危機管理	A	毎月の避難訓練及び毎日の連絡会の申し送りによって、目標は達成している。保護者の安心感も高い。	A	園の評価に納得できます。
	4. 職員への信頼性	A	子どもの引き取りの際、園での様子が伝わり、さらに保護者の満足感につながるようにする。	A	更に園での園児の様子が保護者に伝わるような工夫に努める。

日 々 の 保 育	1. 道徳性の涵養	A	場面に応じ、機会をとらえて、規範意識などを高める指導を行っている。	A	小学校から道徳は教科になりますので、それにつながるかわり方を研究してください。
	2. 生活習慣	A	基本的な生活習慣の形成は、日々の指導や保護者との連携により定着しつつある。	A	園の評価に納得できます。
	3. 健康・安全指導	A	個々の健康情報や感染症の情報提供、発育測定の実施と報告により、保護者の理解を得ている。	A	感染症の状況が分かるようにメールで情報を配信されたことは大変良かったようです。
	4. 幼小の接続期指導	A	学校の集団指導の方法を取り入れたり、一年生との交流を通して、なめらかな接続に努めている。	A	中央校教員が夏休みに園を訪問するなど、連携が良くできています。
地 域 と の 連 携	1. 身近な人々とのかかわり	A	各種団体の園行事への協力を得て、幅広い人々と教育・保育が実現できている。	A	園の評価に納得できます。
	2. 食育の推進	A	給食便りによる啓発、親子カレー作りなど、野菜の栽培活動や調理活動を進めて、目標にせまった。	A	更に、家庭との連携を図り、食育の推進を深めてください。
	3. 生命に気付く環境	A	昆虫や小動物の飼育、野菜や草花の栽培などの体験を通して、目標に迫ることができた。	A	園の評価に納得できます。
	4. 絵本との出会いと読書活動の啓発	A	文字や文章に親しむ、読書や読み聞かせを通して、自分の世界を膨らませることにつながっている。	A	絵本の読み聞かせの充実に向け、外部ボランティアの活用も良いと思います。
	5. 開かれたこども園	A	「まちcomi」を利用して、行事や感染症などをメール配信できた。様々な情報の発信や保育参観等を通して理解を深めていきたい。	A	メール配信は大変効果がありました。ホームページの更新にも努めてください。

5. 関係者委員会のコメント

保護者アンケート91名分の「思う」の評価が全項目で、すべて90%以上の高い評価で、園の方針、進め方に問題は無いと思います。

先生方の努力が着実に実を結び、園と保護者の信頼関係づくりの良好さがとてもよく伝わってきました。

毎年、問題点や課題に素早く取り組み、改善に努められて素晴らしい園になっていると思います。

毎年のカレー作りは、食育の意識を高めるので良いと思います。カレー作りは、子どもが一番楽しみにしている行事で、親子で一緒にできる行事だと思います。

園での取り組みや園での子どもの姿が伝わるような工夫をして下さい。また、各種の便りの発信、HP更新等の本年の素晴らしい実践を更に工夫・発信・PRしてください。

先生方の負担が大きい部分は、地域のボランティアの力を借りることも検討してください。

課題となる内容を十分に精査して、すぐに対応できそうなものから、取り組んでいかれると良いと思います。

今年度は、これまで評価項目が19項目ありましたが、整理・統合を行い13項目にしました。その結果は、全項目でAと自己評価し、外部の関係者評価委員の方からも、A(園の自己評価を納得できる)との評価をいただきました。これは園の方針を保護者と職員が共通理解し、園での教育・保育活動に対して信頼されていると考えます。しかし、自己評価を分析すると、改善すべき点が出てきましたので、来年度はできる事から改善していきたいと考えております。

本園は新制度の認定こども園となり3年目となりますが、昨年度同様に、全国一斉に新制度に移ったため、佐賀県内でも保育教諭や臨時の保育士の不足が続いています。しかし、常勤職員・非常勤職員も含め全職員一体となり、知恵をしばり現状の打開を図ってきました。

平成30年度より、教育・保育要領が全面改訂されます。今年度は、新教育・保育要領の内容を研修などを通して職員へ周知を行ってきました。来年度は、新教育・保育要領の内容に対応させるため、指導計画及び行事等の見直しを図りながら、幼児教育の向上に努めていきます。

来年度も、「やさしく、かしこく、たくましい」ひしの子どもの成長を願って、いろいろな工夫を行い、様々な課題等乗り越えていきたいと考えています。
